

「侵襲性感染症原因菌の疫学解析」に関する臨床データの研究利用について

のお願い

研究の概要・背景

近年再び感染症が注目されていますが、以前にもましてグローバルな視点に立ちその本質を基礎と臨床の両面から明らかにしていくことが要求されています。

侵襲性感染症とは、細菌が存在していない血液、髄液、関節液、組織などから細菌が分離され、それが原因であると診断される疾患です。超高齢化社会を迎え、さまざまな基礎疾患保持例の増加と並行して症例数が増加傾向にあります。

試料・情報の利用目的・方法（他機関への提供を含む）

この研究は侵襲性感染症の中でも最も症例数の多い「細菌が原因」であった症例を全国規模で収集し細菌の詳細な解析を実施している研究施設（東京医科大学微生物学分野）へ、「患者様から分離された細菌の解析依頼」したいと考えています。解析項目としましては、分子疫学解析、耐性遺伝子解析、世界の菌株と比較するための **Multilocus sequence typing (MLST)** 等です。

分離された細菌を他機関へ移動しますが、個人情報保護のため連結不可能・匿名化を行います。解析依頼票は匿名化されていますが、次の記載事項が必要となります：年齢、性別、入院日、受診科、感染症名、菌の分離された検査材料

対象者・期間

侵襲性細菌感染症（肺炎球菌・連鎖球菌による）と推定された患者様
研究実施許可日より **2026年3月31日**まで

データ利用のお願いと申し出について

これらの臨床データは通常の診療で記録されたもので、患者さんに新たな負担はありません。また、個人を特定できるような状態でデータを使用することはありません。本研究の目的と、臨床データ利用に関するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、本研究に関するさらなる説明をご希望の方、また、本研究において臨床データの利用を希望されない方は下記問い合わせ窓口にご連絡ください。研究不参加を申し出られたとしても、患者さんが不利益を受けることは一切ありません。

【お問い合わせ先】

長岡赤十字病院

担当医師： 感染症科 西堀 武明

〒940-2085 新潟県長岡市千秋 2-297-1

電話：0258-28-3600(代)、FAX：0258-28-9000(代)